



心を寄せる（9）

最近、ウクライナの状況を伝えるニュースが少なくなってきました。ウクライナでは、2022年に本格的な侵攻が始まり、数百万人が避難を強いられています。現在は約560万人が避難民として国外に約380万人が国内で避難生活を強いられているそうです。ウクライナは、今寒い冬を迎えています。

国連UNHCR協会の広報誌に載せてあった声（手紙）を届けます。

・・・今年8月末、キーウはミサイルとドローンによる大規模な空襲を受け、4人の子どもを含む25人が亡くなりました。数十棟のアパートが損傷し、少なくとも1500人の住民が影響を受けました。攻撃された建物のうちの一つは、私の住むアパートから数百メートルしか離れていませんでした。明け方、激しい振動と爆発音で飛び起き、とっさに身を守りました。近隣が空爆され、この時ほど命の危険を感じたことはありません。・・・

・・・全面的な侵攻の開始から、すでに4度目の冬を迎えようとしています。ウクライナの冬は寒さが厳しく、暖を取るために北東部地域では薪ストーブが多く使われますが、その他電気やガスも必要になります。昨冬の試練の一つは、ロシアによる重要インフラ施設への度重なる攻撃による停電でした。UNHCRは、17の州の病院や学校など公共施設に186基の発電機を提供しましたが、今年も冬を前に、人々は電気やガスがきちんと供給されるか、薪を買うお金があるかなどを不安に感じています。

北東部のスーミ州出身で2人の子を持つオルハさんは、故郷の村がロシア軍に占拠され破壊されました。子どもたちとキーウの集合避難所へ逃れた彼女は、ウクライナの冬や避難所での厳しい寒さについて、こう語ります。

「ウクライナの冬はとても寒いんです。私が覚えている一番寒い冬には、マイナス20度まで下がりました。あまりの寒さのため、2か月間子どもたちは学校にいけませんでした。雪が深く積もり、外を歩くのも難しかったです。部屋を暖めるのも大変で、木材やガスを使っても助けになりませんでした。本当に寒かったのです。北東部のスーミとく比べると、キーウはより南にあるのでそこまで寒くないのですが、集合避難所に暖房はありませんでした。夜寝る際には、私たちは持っている服を全部着て、2枚の毛布を使っていました。・・・

・・・最近日本では、ウクライナに関するニュースが減ってきているかもしれませんが、しかし、ウクライナでは今も戦争状態が続いていることを忘れないでいただきたいです。人々の日常が戻り、安心して暮らせる日が一日も早く戻ってほしいと願っています。日本の皆様には、苛酷な寒さから命を守る防寒支援をはじめ、ウクライナではまだまだ支援が必要であることを、心に留めていただければ幸いです。・・・

UNHCR ウクライナ事務所代表補（プログラム担当）土岐 日名子

戦地や紛争地に行き、大変な状況の中で困っている人たちに手を差し伸べておられる多くの方がおられます。私たちもそのような状況を理解し心に置きながら、できることがあればお手伝いをしたいものですね。

この手紙をもとに、こどもと話してみませんか。困った人に手を差し伸べることができる優しい心が育まれるのではないのでしょうか。